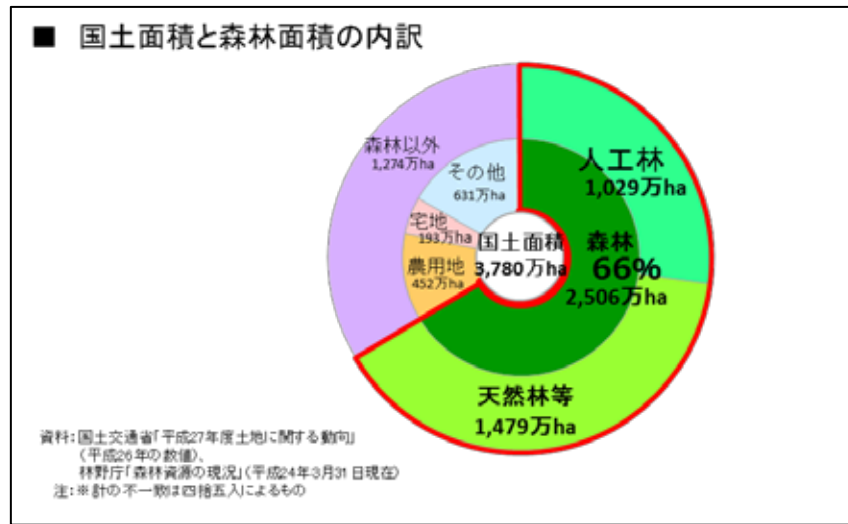


林業分野の意見（参考資料）

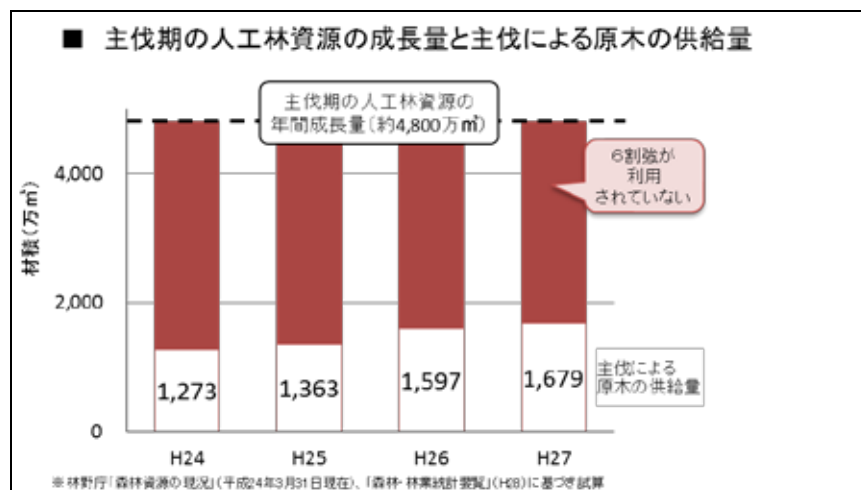
1. 森林資源の現状

我が国の森林面積は国土面積の3分の2にあたる2,500万haで、そのうち人工林が1,000万haを占めている。



(出典)第1回農林WG 資料1-1林野庁提出資料を基に作成

人工林の約半数が主伐期を迎えようとしており、主伐期を迎えた人工林の直近5年間の平均蓄積増加量は、年間4,800万 m^3 。主伐による原木の供給量は平成27年時点で1,679万 m^3 。



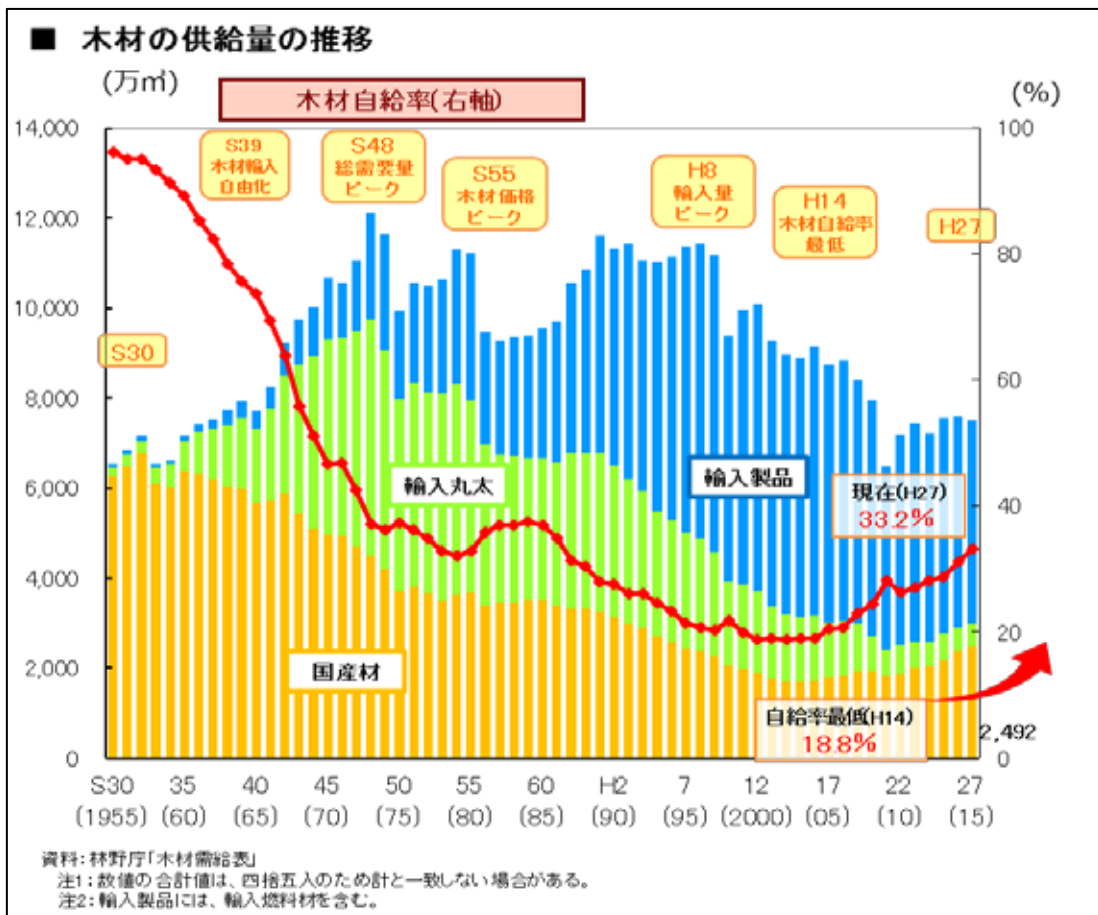
(出典)第1回農林WG 資料1-1林野庁提出資料を基に作成

条件のよい人工林においては主伐が行われているが、いまだ成長量の6割強が利用されていない状況にある。

2. 木材需給の動向

我が国の木材需要量は昭和48年をピークに低減傾向。

他方、木材自給率も、平成14年の18.8%を底に上昇傾向で推移し、平成27年は33.2%まで上昇。

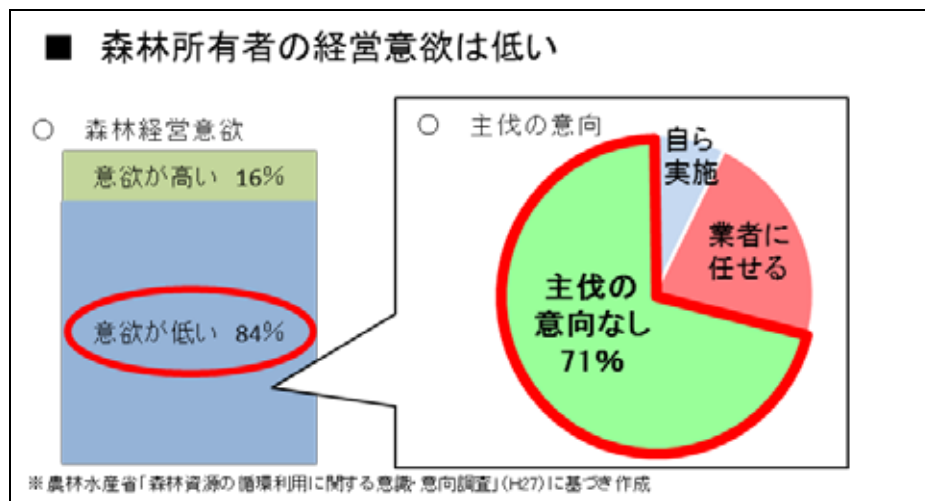


(出典)第1回農林WG 資料1-1林野庁提出資料を基に作成

今後は、これまで木造化が進まなかった中高層建築物、オフィスビル、商業施設等の低層非住宅建築物の木造化・木質化による木材利用の拡大と同時に、木材の利活用を過度に制限する規制・基準の見直しが重要。

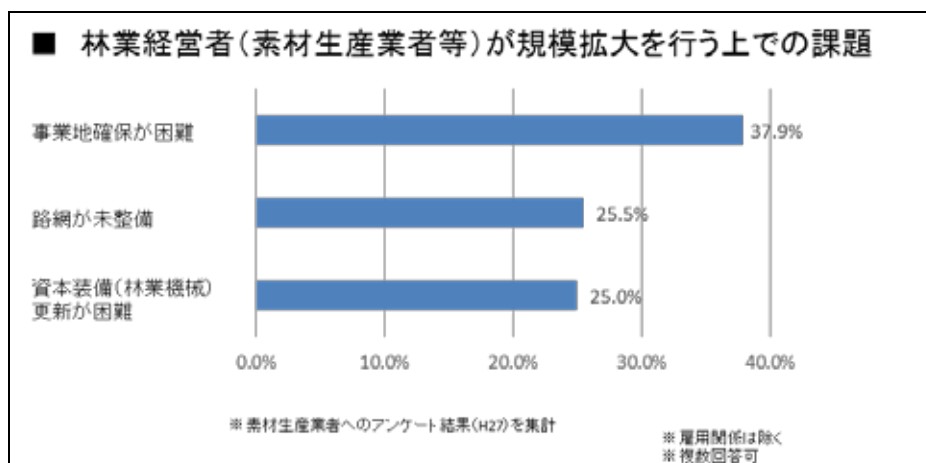
3. 森林所有者・林業経営者の現状

我が国の森林の所有形態の約9割は所有面積10ヘクタール未満の零細であり、その大半が経営意欲の低い森林所有者で占められている。さらに、そのうち約7割は主伐の意向すらない。



(出典)第1回農林WG 資料1 - 1林野庁提出資料を基に作成

一方で、素材生産業者等の林業経営者のうち、7割の者は規模拡大の意向を持っているものの、「事業地確保が困難」、「路網の未整備」などを事業拡大上の課題として挙げている。



(出典)第1回農林WG 資料1 - 1林野庁提出資料を基に作成